

結核予防週間が始められた経緯

結核研究所

図書室 佐藤 和美

前号で、結核予防の国民的取り組みの企画として、前身の日本結核予防協会による「結核予防デー」の成り立ちと発展に関してまとめた。その後、結核予防会として「結核予防週間」がどのように始められ、発展してきたかを歴史的資料に基づいて整理してみたい。資料としては、結核予防会の年史として、「令旨奉戴五周年記念誌(1944年)」、「創立二十周年小史(1959年)」、「創立四十周年年史(1980年)」、「五十年のあゆみ(1989年)」、「六十年の軌跡(1999年)」、「創立六十周年年史(2000年)」、「七十五年の軌跡(2014年)」を参照した。

結核予防国民運動

「五十年のあゆみ」によると、結核予防会発足後、令旨奉戴を受けて昭和14年11月14日、厚生省・本会共催で『結核予防国民運動』を全国一斉に展開した。11月14日から5日間、第1日は都市、第2日は農村、第3日は工場、第4日は学校、第5日は家庭にそれぞれ重点を置いた結核予防国民運動を、政府側は関係各省総がかり、民間側は本会を中心とし、全国一斉に展開したので、最初のこの運動は十分な啓発効果をおさめ、民衆の間に結核予防に対する関心が高まってきた。この第1日、東京日比谷公会堂で結核予防国民全国大会を開催、結核研究所長与所長は、『結核研究所の使命』と題して講演した。また、この昭和14年には普及・啓発活動のために展覧会も行われ、11月23日か



図1. 終戦直後の街頭検診

ら12月6日にかけての2週間、東京で本会主催の「令旨奉戴結核予防展覧会 結核とその予防」を開き、翌年には大阪、八幡、小倉、名古屋の各市、また、昭和16年には金沢、富山、福井の各市で巡回展を開催している。(「複十字」No. 400に、工藤翔二理事長(当時)による「予防会最初の普及・啓発活動—『結核とその予防』令旨奉戴結核予防展覧会」を参照。)

「創立二十周年小史」には、その続きとして「昭和15年と16年には、『国民健康増進運動』が、同17年と18年には『健民運動』が、いずれも、令旨を奉戴した記念日(昭和14年4月28日)の前後に実施された。」とある。

結核予防撲滅運動

昭和18年5月1日、厚生省・本会共催で『結核予防撲滅運動』を10日間全国的に展開した(「五十年のあゆみ」)。

街頭検診

終戦となり、昭和21年3月31日：東部中央健民修練所(世田谷区上北沢)が本会に移管され、上北沢予防所として発足した。本会の診療



図2. 街のテント病院(数寄屋橋)

行為は、創立以後、結核研究所のもとにおかれた療養部(保生園)および健康相談部(第一健康相談所、第二健康相談所)において行われていたが、この移管によって新たに結核研究所から独立した診療施設として開所、戦災により焼失した第二健康相談所が再建されぬまま、小学校の集団検診を中心に、地域の診療活動を開始した。また、開所後間もない7月には、都心の数寄屋橋で戦後初めての街頭検診を開始した。これがマスコミに取り上げられ、『街のテント病院』と報ぜられ、話題を呼んだ。この街頭検診は、昭和22年5月、

23年5月、10月と続けられ、年中行事となり結核予防週間の先駆けになった（「五十年のあゆみ」）。



図3. アパート街の街頭検診
(レントゲン車はシール号)

結核予防実践運動から結核予防週間へ

昭和23年4月28日、結核予防実践運動が全国的に開催された。この一連の運動の推進にあたっては、「厚生省、その他医療団体の協力を得て、本部から指導員を派遣した。」とあり、これから結核予防週間につながっていく。

上記の街頭検診は、画期的な実践活動として各方面に反響を呼び、全国各地で活発に行われるようになって



図4. 第一健康相談所の第一号レントゲン車による市中検診

た。昭和22年には全国的な結核予防国民運動に発展し、23年には結核予防実践運動に、24年に結核予防週間として全国的に統一され、同一のスローガンのもと、厚生省と共催で諸行事に行われるようになった。

第1回結核予防週間は昭和24年11月10日から実施された。期日については、その後変動があり、昭和25年には5月25日～、26年には10月25日～、27年は5月の結核半減記念大会時に繰り上げて実施、28年より36年までは10月25日～、37年より9月24日～に改められ、今日に至っている（「五十の年あゆみ」）。🐱



図5. 結核予防週間中の標語横断幕
(道後温泉昭和37年)